新庁舎建設だより
～八女市新庁舎建設工事～

2024年1月 No.23
発行：八女市企画部
新庁舎建設課

工事の進捗状況

あけましておめでとうございます。令和４年２月に本格着工した新庁舎棟の建設工事も８割程度が完了し、現在竣工に向けて、内部外部ともに急ピッチで様々な工事を進めています。情報発信のスペースとして設けた「情報の町家」には、３階まで続く吹抜の壁面に、国指定伝統的工芸品である、八女福島仏壇の技術を用い、漆塗りで装飾した杉板（45センチ角72枚）のパネルも設置されました。工事も最終盤となりあと一息。事故のないよう安全第一で作業を進めていきます。引き続き皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

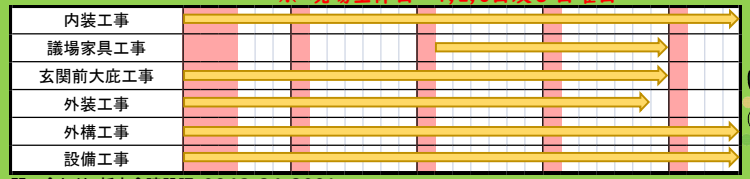
新庁舎棟工事全景（令和5年12月27日 ドローン撮影）

ヨコ2.7m、タテ5.4m

１階　情報の町家（３階までの吹抜空間）

1月の工事予定

※ 現場全休日：1,2,3日及び日曜日



通行止めの状況

問い合わせ：新庁舎建設課：0943-24-8091
工事現場事務所：0943-24-8650（施工業者：東急・ｲﾉｳｴﾊｳｼﾞﾝｸﾞJV）

八女スギ床材

八女の森林の中で一番多くの割合を占める樹種のスギ。新庁舎の待合ホールの床には、この八女産のスギを活用したフローリングを採用しています。やわらかく傷つきやすい特性から、従来、不特定多数の方が利用される公共施設等のフローリング材としては、あまり適さないとされてきたスギを、特殊製法により約60%（12ミリ→4.8ミリ）圧縮することで、広葉樹にも負けない表面強度（ナラやブナの約2倍）へと改質させて使用しています。床、天井に八女スギを活用した温かみのある空間で、来庁される皆さまが、木材活用のすばらしさを認識していただくことで、八女産木材のPRを図っていきます。

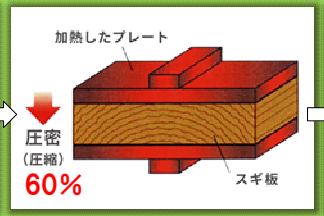
伐採された八女産のスギ丸太。

伐採されたスギ丸太を八女市内の各製材所で分担して製材。

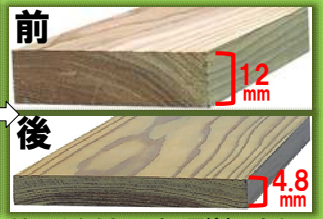
スギ丸太から切り出された側板。この中から状態を選別して加工。

加工が完了した圧縮用の原板。製材所から圧縮加工場へ配送。

圧縮加工場で、自然乾燥の後、乾燥窯で加工に適した含水率まで乾燥。



乾燥後、特殊プレス圧縮強化製法で、熱と圧力をかけ、木材を60%圧縮。



12mmから4.8mmまで圧縮加工した木材を、3mmに切削し合板と接着。

厚みを調整し、サネ加工（※）をした状態。この後、表面をウレタン塗装し出荷。

フローリング工事施工状況。
※板の側面につけた凹凸の加工。

2F待合ホール。床のフローリングと天井のルーバーに八女スギを使用。